

高知大学におけるキャリア教育体系化の取組（3）

— 「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用と キャリア教育のオンライン化を中心に —

- 森田佐知子（学生総合支援センター）
- 高橋 俊（教育研究部 人文社会科学系 人文社会科学部門）
- 永田 信治（教育研究部 総合科学系 生命環境医学部門）
- 福岡 慶明（教育研究部 自然科学系 理工学部門）
- 吉岡 一洋（教育研究部 人文社会科学系 教育学部門）
- 井上 菜月（学務部 学生支援課 就職室（就職相談員））

キーワード：キャリア教育、キャリア形成支援、インターンシップ、オンライン

高知大学では、2018年度より、理事（教育担当）のもと、学生総合支援センターキャリア形成支援ユニット（以下、キャリア形成支援ユニット）を中心に、高知大学におけるキャリア教育体系の現状を整理し、その改善・充実にに向けた検討を開始することとした（森田・岩崎・徳弘，2019）。高知大学ではこれまで、準正課活動という特徴的な独自のキャリア形成支援と正課外における就職活動支援を充実させていた一方で、正

はじめに

本稿は、2018年度から開始した、「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施（以下、「本事業」と略）」における2020年度の実施内容を報告するものである。



課科目におけるキャリア教育は、共通教育（初年次科目、教養科目）では取り入れられていたものの、専門科目におけるキャリア教育は各学部委ねられている現状であった。

そこで、大学として、学士課程全体を通じて体系的なキャリア教育を充実、改善させていくために本事業が開始された。その概要を図1に示す。

初年度である2018年度は、高知大学「平成30年度教育研究活性化事業（教育改善・修学支援）」に採択され（採択課題「4年間を通じたキャリア教育体系の改善・充実に向けた取組」）、共通教育におけるキャリア教育の拡充と教職員へのヒアリング調査、オーストラリアの高等教育機関における先進事例調査を実施した¹。2年目である2019年度は、共通教育におけるキャリア教育の充実を継続しつつ、専門教育におけるキャリア教育の充実・改善の仕組みを構築することを目的とし、2019年度末に「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の策定に至った²。

本稿では、3年目となる2020年度の取組について、①共通教育（初年次科目）、②共通教育（教養科目）、

③専門教育、の3つに分けてその現状を報告し、最後に今後の課題と展望を述べる。

1. 共通教育（初年次科目）におけるキャリア教育の充実

高知大学では、「学びの転換」、「基礎的スキルの習得」、「学問への動機づけ」、「キャリア形成支援」を柱に、入学後すぐに学びの転換を図り、自分で考え行動できる力、他者とコミュニケーションできる力、表現できる力を養成するために初年次科目を設置している。初年次科目として「大学基礎論」、「学問基礎論」、「大学英語入門」、「英会話」、「情報処理」、「課題探求実践セミナー」の6科目が設置されているが、このなかで大学基礎論は特に、「自分の将来像やキャリアに展望を持つこと」が授業目標の一つに掲げられている。

初年次科目の授業内容は原則として各担当教員に委ねられているが、2018年度より、担当教員からの希望があれば「大学基礎論」や「学問基礎論」、「課題探求実践セミナー」の1～2コマを「キャリアデザイン入門」としてキャリア形成支援ユニットの専任教員が担

表1：初年次科目における「キャリアデザイン入門」の提供状況（2018年度～2020年度）

学部名	2018年度			2019年度			2020年度		
	対象学科・コース	実施科目名	実施日	対象学科・コース	実施科目名	実施日	対象学科・コース	実施科目名	実施日
人文社会科学部				社会科学コース	大学基礎論	4月19日（金）3限 4月23日（火）3限	社会科学コース	学問基礎論	10月9日（金）、12日（月）3限（同じ内容を2日間に分けて実施） →コロナの関係で中止
				国際社会コース	課題探求実践セミナー	5月15日（水）2限	国際社会コース	課題探求実践セミナー	5月13日（水） 6月10日（水） （オンライン非同期）
理工学部	全学科・コース	大学基礎論	5月2日（水）1限	全学科・コース	大学基礎論	4月24日（水）1限	全学科・コース	大学基礎論	5月1日（水） （オンライン非同期）
農林海洋科学部							全学科・コース	大学基礎論	6月5日（金） （オンライン非同期）
	農林資源環境科学科	学問基礎論	11月14日（水）3限	農林資源環境科学科	学問基礎論	11月27日（水）3限	農林資源環境科学科	学問基礎論	10月14日（水）3限（対面）
							海洋資源科学科 海底資源環境科学コース	学問基礎論	10月28日（水）3限（対面）
						海洋資源科学科 海洋生命科学コース	学問基礎論	12月21日（月） （オンライン非同期）	
地域協働学部	全学科・コース	大学基礎論	4月12日（木）4限 7月12日（木）4限				全学科・コース	学問基礎論	12月14日（月） 12月21日（月） （オンライン同期）
土佐さきがけプログラム	全学科・コース	大学基礎論	4月19日（木）1限 7月19日（木）1限	全学科・コース	大学基礎論	4月18日（木）1限 7月25日（木）1限			

¹ 2018年度の取組詳細は、森田・岩崎・徳弘（2019）を参照されたい。

² 2019年度の取組詳細は、森田・岩崎・徳弘（2020）を参照されたい。

当することとした。2018年度から2020年度における「キャリアデザイン入門」の提供状況を表1に示す。

初年次科目におけるキャリア教育はそれぞれの学部

で1～2コマのみの実施であるため教育効果測定には至っていないが、理工学部（全学科）、農林海洋科学部（農林資源環境科学科）については、2018年度、2019年度、2020年度と連続して依頼を受け、キャリア教育を実施している。また2019年度は実施の無かった地域協働学部、そして2018年度、2019年度と実施の無かった農林海洋科学部（全学科・大学基礎論）、農林海洋科学部海洋資源科学科の2つのコースについても、2020年度は実施することとなった。上記より、目的学部である教育学部と医学部を除き、初年次科目におけるキャリア教育の提供が拡充しつつあることが分かる。

2. 共通教育（教養科目）におけるキャリア教育の充実

2-1. 「キャリアプランニングⅠ」及び「キャリアプランニングⅡ」の継続とオンラインによる実施

キャリア形成支援ユニットでは、2018年度より「キャリアプランニングⅠ（2学期、月曜4限、2単位）」、2019年度より「キャリアプランニングⅡ（1学期、集中講義、2単位）」を新規で開講し、共通教育（教養科目）におけるキャリア教育の充実を図ってきた。本年度も上記2科目を継続して開講し、それぞれ109名と77名の学生が履修した³。それぞれの授業履修者の学年・学部別内訳を表2、表3に示す。

表2、3を見ると、キャリアプランニングⅠは1年生、

表2：2020年度「キャリアプランニングⅠ」履修生内訳

学部	1年生	2年生	3年生	4年生	全学年
人文・人文社会	33	13	2	1	49
教育	1				1
医学（看護）	5		1		6
理・理工	4	8			12
農林海洋	13				13
地域協働	16		4	8	28
合計	72	21	7	9	109

表3：2020年度「キャリアプランニングⅡ」履修生内訳

学部	1年生	2年生	3年生	4年生	全学年
人文・人文社会	4	17	4	4	29
理・理工	1	11	3	3	18
農林海洋	0	5	8	0	13
地域協働		11	6		17
合計	5	44	21	7	77

³ キャリアプランニングⅠは履修定員無し、キャリアプランニングⅡはグループワークを行う関係で履修定員を60名としていた。

キャリアプランニングⅡは2、3年生の履修が多く、新規開講時に想定していた年次の学生が履修していることがわかる。学部内訳は、キャリアプランニングⅠは人文・人文社会科学部、地域協働学部の学生が多い一方で、キャリアプランニングⅡは理・理工学部や農林海洋科学部の学生の割合が増えていることがわかる。

上記2科目は通常、対面形式で実施しているが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで実施することとした。2つの科目のうち、「キャリアプランニングⅠ」は講義と個人ワークを中心とする授業内容であるため、全15回のうち11回を非同期型、4回を同期型とすることで、比較的スムーズにオンラインに移行することができた。

一方「キャリアプランニングⅡ」は、講義のおよそ半分を演習（グループワーク）に充てているため、オンラインへの移行が難しいと考えられた。その講義内容を表4に示す⁴。

表4：2020年度「キャリアプランニングⅡ」授業内容

日程	授業内容
9月1日 (火)	1限：オリエンテーション 2限：インターンシップ・就職活動・ナビサイトの最新動向 3限：社会で求められる力を知る 4限：自己分析とエントリーシートの書き方①
9月2日 (水)	1限：多様な働き方とそれぞれの職業につくために必要なことを知る① 2限：多様な働き方とそれぞれの職業につくために必要なことを知る② 3限：【GW】自己分析とエントリーシートの書き方② 4限：社会で求められる力を体感する（準備編）
9月3日 (木)	1限：1日目、2日目の振り返り 2限：【GW】社会で求められる力を体感する（体感編）① 3限：【GW】社会で求められる力を体感する（体感編）② 4限：【GW】社会で求められる力を体感する（体感編）③
9月4日 (金)	2限：面接対策講座① 3限：【GW】面接対策講座② 4限：授業のまとめ、アンケート

上記の通り、「キャリアプランニングⅡ」は2日目後半から4日目にかけてグループワークが続く授業内容となっている。

⁴ 【GW】とある時間帯は、グループワークを行う時間帯である。

まず、オンラインでグループワークを行う方法について検討した。オンラインにおけるグループワークは、一般的には Zoom のブレイクアウト機能を使うことが多いようであったが、Zoom は無料アカウントでは 3 人以上のミーティングを行う場合に 40 分の時間制限があること、また学内では Teams が推奨されており 8 月に大学教育創造センター主催で開催された「Teams を使用したアクティブ・ラーニング型授業づくり研修会」にて、Teams を活用したグループワークの方法について学ぶことができたため、本授業では、Teams のチャンネル機能を活用してグループワークを実施することとした。

次に、グループワーク中の学生への助言・指導面で考慮が必要であった 3 日目について検討する必要がある。3 日目は、企業等から提示された課題について、学生が 5～6 名のグループでその解決策を考え発表していく内容で、グループワークの最中に、教員がそれぞれのグループの様子を確認し、必要に応じて助言や指導を行う必要がある。対面であれば、1 名、もしくは 2 名の教員でもグループワークの様子を広く確認することが可能であるが、オンラインで行う場合、少人数の教員では必要な助言や指導を正しいタイミングで行うことが難しいと考えられた。そこで、担当教員以外に、就職ナビサイト運営企業から 3 名、そして就職室の就職相談員から 2 名、合計 5 名の協力講師を招聘し、担当教員以外の 5 名の講師については、1 人の講師が 3 つのグループを巡回しながら助言・指導を行うこととした⁵。

上記のような方法で実施した結果、学生の満足度は、「とても満足」65.1%、「満足」34.9%となり、対面で実施した 2019 年度の「とても満足」37.3%、「満足」61.3%を上回る結果となった。以下、学生のアンケート自由記述欄のコメントの一部を抜粋する。

昨年、半年間開講した通常授業のキャリアプラン

⁵ 担当教員はグループを持たず待機し、途中で来た学生や、グループワークを行うオンライン上のチャンネルに入れない学生、接続トラブルの学生等への対応をしたり、講師からの連絡に対応するなど、全体的なマネジメントを行うこととした。

ニング I を受講していたため、今回の集中講義でオンラインである点は授業内容やクオリティに影響を与えると想像していたが、リアルタイム授業や質疑応答、グループワークやゲスト講師により対面授業に劣らないクオリティと体験を得ることができた。新鮮な知識を得られたので今後の就職活動に生かしたい。(人文社会科学部、2 年生)

逐一チャットで質問を収集して、それに対して答える形式がとてもいいと感じました。これに関しては、対面授業よりも優れている点ではないかと思いました。対面だと、全体の授業で手をあげて質問するのは中々ハードルが高いけど、チャットならそのハードルが軽減され、全体として意識の高い授業になっていたように感じます。さすがにグループワークなどは対面でやりたかった思いもありますが、これはこれで良い経験になりました。(人文社会科学部、2 年生)

リモート授業ではありましたが、大学生活初のグループディスカッションを行えたことや、コロナ禍での就職活動についても学ぶことができ、非常に学びのある経験となりました。(人文社会科学部、1 年生)

今までも就職に関しての説明会などには参加しましたが、こういった体験型のような授業は初めてだったのでとてもいい経験ができました。グループワークは不慣れながらも周りに支えられながら十分な話し合いやワーキングができたと思います。(理工学部、3 年生)

自分の意見を話すことがとても苦手で、克服しようとしてこの授業を選択したが、グループワークの際など緊張してしまいうまく話せなかった。しかし講師の先生は学生の意見を否定するようなことは一つもおっしゃられなくて、言葉尻も柔らかく安心できた。(農林海洋科学部、2 年生)

グループワークの際に、グループに先生が進捗状況を細かく見に来てくださったことによって緊張や不安がほほない状態で安心してワークを進めることができました。その節はありがとうございました！！（地域協働学部、2年生）

一方で、いくつかの課題も発見できた。まず1点目の課題は、Wi-Fi等の接続の問題で授業の途中で参加できなくなったり、カメラや音声が入らない学生が少数であったが存在した点である。この点については、この1年間のオンライン授業で多くの学生は問題なく同期型の授業を受講できるインターネット環境を構築できていると考えられるが、途中で参加できなくなってしまった学生がその時の授業内容を確認できるよう講義資料を配布したり、個別にフォローしていくことが必要であると考えられる。2点目の課題として、複数の学生から、グループワークの時間が短かったとの意見があった。特に3日目に実施したグループワークについての意見が多かったため、次年度は少し時間配分を見直すことを検討したい。また、今回の授業では、全体会議、グループワークのチャネル、発表用のチャネルの3つを学生が行き来する必要があるため、全体会議に戻る時間や休憩の時間などが分からなくなってしまったとの声もあった。この点についても、予め学生にスケジュールを配布するなどして改善していきたい。

2-2. 知プラe科目「キャリアプランニング」新規開講

さらに2020年度は、大学教育創造センターからの依頼もあり、2学期に知プラe科目において、キャリアプランニングの基礎的な科目である「キャリアプランニング」を開講することとした。知プラe科目とは、四国地区の5つの国立大学が共同で実施する「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」の一環として実施されている取組で、香川大学が基幹校として実施される「四国におけるe-Knowledgeを基盤

とした大学間連携による大学教育の共同実施（知プラe事業）」において開講されている授業である。高知大学の学生だけでなく、香川大学、徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学の学生も履修することができる完全e-learningの科目であるため、広く地域に貢献することができるというメリットがある。

2020年度は表5の内容で開講し、高知大学から37名、香川大学5名、徳島大学2名、愛媛大学5名の学生が履修した⁶。

表5：2020年度 知プラe科目「キャリアプランニング」授業内容

1	オリエンテーション（授業の流れの説明，授業における目標設定）
2	キャリアプランニングの基礎理論
3	自分を知るⅠ（社会で求められる力と自分の強みを知る）
4	自分を知るⅡ（適職診断と志望業界・志望職種の広げ方を知る）
5	働き方を考える（ワークライフバランスの本質とは？）
6	自分のことを他者に伝えるトレーニング（エントリーシートを書いてみよう）
7	インターンシップと就職活動
8	授業のまとめ（これからの時代のキャリアプランニング、アンケート、定期試験レポート）

知プラe科目「キャリアプランニング」については、完全e-learning（非同期型）であることから、履修しても最後まで学習を続けることができる学生が対面の授業よりも少ない傾向があるとのことであったため、毎回必ず動画を作成する、学生の課題を学生同士が相互に閲覧できるようにする、学生の課題に対してフォローのコメントを記入するようにするなどの工夫をしたことで、比較的多くの学生が単位を取得することができた。これは新型コロナウイルス感染症の影響で対面授業のオンライン化が進んでいたことで、学生が完全e-learning（非同期型）の授業の学習方法を習得で

⁶ 2020年度は、高知大学の履修定員を40名、その他の大学については履修定員を5名とした。

きていたことも影響していると考えられる。

今後の課題としては、定員を5名としていた他大学で、定員を大きく上回る履修希望となった大学があったことがあげられる。そのため、次年度以降は他大学の学生の履修定員の拡大を検討したい。

2-3. インターンシップの充実に向けた学生へのアンケート調査とその結果

キャリア形成支援ユニットでは、2018年度、2019年度と、共通教育（教養科目）キャリア形成支援分野にて「インターンシップ実習（1学期、集中、2単位）」を開講していた。しかしこの授業に関しては、初年度39名であった履修者が2年目は14名と大きく減少していた。そこで、履修学生に対してアンケート調査を行い、改善点などを質問したところ、提出書類などが分かりにくい、集中講義であるためマッチングセミナーや事前、事後指導など日程的に参加が難しいといった意見が寄せられた。また例年、履修説明会や事前指導に参加していても、実習先を見つけることができず履修をあきらめる学生も多く存在していたことが明らかとなった。

そこで、2020年度は「インターンシップ実習」を開講せず、学生へのアンケート調査等を行い、教養科目におけるインターンシップのあり方を検討し内容を見直した上で、2021年度より新たなインターンシップ科目を設置することとした。本節ではアンケート調査の結果をまとめる。

アンケート調査の概要は以下のとおりである。

目的：共通教育は主に1、2年次に履修する学生が多い。そのため、共通教育におけるインターンシップ科目の内容見直しにあたり、学生が1、2年次のインターンシップについてどのような認識や要望を持っているのかに関して調査することを目的として、アンケート調査を行った。

時期：2020年4月3日（金）～2020年4月16日（木）

対象：学部4年生全員（医学部除く）

方法：Web形式。依頼方法は健康診断会場でのチラシ配布とKULASでのメッセージ配信（2回）。

回答数：161件（有効回答数159件）

回答者の学部構成：教育学部13.8%、人文社会科学部35.8%、理工学部21.4%、農林海洋科学部20.8%、地域協働学部6.3%、土佐さきがけプログラム1.9%

最初に、どの程度の学生が、1、2年次でインターンシップに参加したのかを確認したところ、「1、2年の時にインターンシップに参加したことがある」と回答した学生は24名（15.1%）にとどまる結果となった。これらの学生に参加したインターンシップの単位認定の有無を質問したところ、75.0%の学生が「単位認定無」のインターンシップのみに参加、12.5%の学生は「単位認定有」のインターンシップに参加、同じく12.5%の学生は「単位認定有・無どちらにも参加したことがある」と回答した。このことから1、2年次でインターンシップに参加したことのある学生は、企業等が主催するインターンシップを自分で探して参加するケースが多いと推測できた。

次に、「1、2年生の時にインターンシップに参加しなかった」と答えた学生135名に対して、「1、2年次にインターンシップに参加すべきだったかどうか」を質問したところ、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計が64名（47.8%）となり、低学年のうちにインターンシップに参加しておけばよかったと考えている学生の割合が半数近くに上ることが分かった。さらに自由記述欄の分析結果から、「1、2年次にインターンシップに参加すべきだったかどうか」について「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した学生の多くは、教員、もしくは大学院進学を検討している学生であることが明らかになった。上記より、民間企業を希望する学生の多くは、4年生になった段階で、1、2年次でインターンシップに参加すべきだったと考えていることが分かった。

こうした学生が1、2年次でインターンシップに参加しなかった理由を探るため、1、2年次で参加すると有益だったと思うインターンシップの内容について質問した（複数回答可）。その結果、「自身の就職先として考えている特定の企業・組織について、深く知る

ことができる」、「特定の仕事に対する自分の適性を見極めることができる」といった内容についてはそれぞれ20名と18名にとどまる結果となった。一方で、最も多かった回答は「どのような業界があるのかを学び、将来行きたい業界を見つける」で55名、次に「社会人としての知識やマナーを学べる」42名、「自分自身が成長できる」31名となった。このことから、1、2年次には将来の進路をまだ決めていない学生が多く、そうした学生にとって、具体的なインターンシップ先業界や企業を特定することが難しい可能性が示唆された。最後に、学生全員に対して、低学年生向け e-learning のインターンシップ入門の授業（企業等での実習ではなく、インターンシップの選び方やマナーを学ぶ授業。知プラ e 科目で1単位を想定）があれば受講したかったかを質問した。その結果、「ぜひ受講したかった」14.5%と「受講したかった」40.3%を合わせると54.8%となり、一定のニーズがあることが明らかとなった。

以上より、低学年の学生が多く履修する共通教育(教養科目)においては、特定の実習先を限定してインターンシップに参加するという形式よりも、様々な業界や社会人としてのマナーを習得し、インターンシップの準備ができるような授業科目へのニーズが高いと推測された。そのため、2021年度1学期より、新たに、上記内容の授業を「インターンシップ入門(1単位)」として開講することとした。またこの新規科目については、学生が他の授業やキャンパスに縛られず自分の都合の良い時間帯に学べるよう、知プラ e 科目にて開講することとした。

3. 専門教育におけるキャリア教育の充実について

3-1. 「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用開始

3節では、専門教育におけるキャリア教育の充実について2020年度の取組を述べる。

2020年度は、2020年3月に策定した「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項(以下、「本

要項」と略)」の運用開始年度であった。本要項は、第1の趣旨・目的を除くと、大きく4つの事項について定めている。それは、①共通教育におけるキャリア教育の充実、②専門教育におけるキャリア教育の充実、③アドバイザー教員によるキャリア形成支援の確立、④キャリア教育実施の検証、である⁷。

本要項の最も大きな特徴は、学士課程を通じたキャリア教育の実施に関する事項だけでなく、その効果検証についても要項内に明記したことである(森田・岩崎・徳弘, 2020)。森田・岩崎・徳弘(2020)によれば、効果検証の手順は以下の通りに定められている。

まず、(1)各学部は、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画を作成し、年度はじめに学士課程運営委員会に提出する。そして(2)各学部は年度計画にもとづきキャリア教育を実施する。効果検証については、(3)キャリア形成支援ユニットが各学部の協力を得て全学生に対しアンケート調査を実施する。(4)効果検証の分析結果は学士課程運営委員会を通じて各学部へフィードバックされ、各学部はこのフィードバックの内容に基づいてキャリア教育の改善・充実を図り、その方策を学士課程運営委員会に報告する。また上記プロセス全般に渡り、キャリア形成支援ユニットは、必要に応じて各学部に対して助言及び支援を行うとなっている。

3-2. 各学部の専門教育におけるキャリア教育・キャリア支援の効果検証について

まず、2020年5月18日の学士課程運営委員会において、「令和2年度 専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画策定のお願い」として前節で述べた(1)に関する依頼を行った。依頼は本来であれば4月に行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で各教員が授業を対面からオンラインへと急遽移行している時期でもあったため、1カ

⁷ 本要項は本稿の後ろに資料として添付しているので、詳細は要項を参照されたい。

月遅らせての依頼となった。

本依頼にあたっては、各学部を実施計画を記載してもらうフォーマットを作成するだけでなく、詳細な記入例を作成し提供することで、より具体的な計画を立ててもらえるようにした。この記入例については、実際の学部の状況を反映できるよう、キャリア形成支援ユニットの専任教員ではなく、学部から選出された兼務教員（理工学部）にその作成を依頼した。兼務教員による詳細な記入例のおかげで、結果として、各学部からも非常に詳細な計画案が提出されることとなった。

その後、各学部には、作成した実施計画に沿ったキャリア教育・キャリア支援を実施していただいた。一方キャリア形成支援ユニットでは、効果検証のための学生アンケート調査の調査票の設計を行った。2020年度は初年度ということもあり、まずは学生が、各学部の専門教育において、①専門領域と社会とのつながりについて考える機会となる授業、②専門領域と関連した実践的な科目、そして③アドバイザー教員によるキャリア形成支援、の3つが実施されていることを認識しているかどうか、という点に焦点を当てたアンケート調査を実施することとした。加えて、専門教育の中で実施してほしいキャリアに関する授業内容や、アドバイザー教員に求めるキャリア支援についても質問した。また上記のような全学部共通の質問項目に加えて、学部独自の質問項目も設定できるように作成した⁸。

作成したアンケートは、2020年12月14日に学士課程運営委員会を通じて各学部の学務（教務）委員長に確認いただき、2021年2月5日を期限として各学部で実施していただくこととした。学生アンケート調査の実施にあたり、当初は、回収率の良い紙での実施を予定していたが、この点についても新型コロナウイルス感染症の影響により、すべての学部において Web（Microsoft Forms 使用）で実施することとなった。

3-2-1. 各学部の専門教育におけるキャリア教育・キャリア支援の効果検証の結果

本要項では、学生アンケート調査は、全学部の就職年次の学生全員を対象として行うことになっている。2020年度は、対象である1,123名の学生に Web でアンケート調査票を送付し、422名の学生からの回答を得ることができた（回収率39.9%、有効回答率37.6%）。

回収率に関しては、60%を超える回収率となった学部もあった一方で、20%に満たない学部もあり、課題が残る結果となった。2020年度は Web での実施、かつ、実施期間も12月中旬から2月中旬と2カ月程度しかなかったため、学部によっては学生にアンケートに回答してもらうタイミングがなかったことも考えられる。そのため、2021年度以降は、アンケート実施可能期間を10月下旬ごろからとし、かつ、紙で実施できる機会があれば紙でも実施できるよう準備することとした。

3-2-2. キャリア教育（授業）に関する検証結果

本節では、アンケート調査の中で、キャリア教育（授業）に関する結果についてまとめる。

まず学生の希望する働き方は、「民間企業に就職する」が最も多く146件、次いで「公務員になる」が79件、「教員になる」が69件となった。本調査にて、同じ学部でも学科やコースによって進路希望が大きく異なる場合があることが明らかとなったため、学部・学科・コースごとに、学生の特性や進路希望に即したキャリア教育・支援が必要であると考えられた（表6）。

次に、専門教育において、専門領域と社会との繋がりについて考える機会となる授業科目（座学）があったかどうか、という質問については、41.2%が「あった」、58.8%が「無かった」と回答した。学部別にみると、地域協働学部では「あった」と回答した学生が50%を超えており（66.7%）、理工学部においても50%に近い値（49.0%）となっている。一方で、教育学部（29.4%）や人文社会科学部（30.9%）では低い割合にとどまる結果となった。

専門教育において、専門領域と関連した実践的な科目（実習、インターンシップ、フィールドワーク、サー

⁸ 本アンケート調査票は本稿の後ろに資料として添付しているので、詳細はそちらを参照されたい。

表6：学生の希望する将来の働き方

希望する将来の働き方	人文社会		教育		理工		医学		農林海洋		地域		TSP	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
民間企業に就職する	29	52.7%	8	15.7%	48	48.0%	0	0.0%	38	34.9%	17	70.8%	6	46.2%
公務員になる	14	25.5%	8	15.7%	18	18.0%	4	5.7%	29	26.6%	5	20.8%	1	7.7%
非営利組織で働く	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
起業する	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.6%	0	0.0%	0	0.0%
医療系専門職になる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	58	82.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療系以外の専門職になる	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
研究者になる	2	3.6%	0	0.0%	12	12.0%	0	0.0%	7	6.4%	0	0.0%	2	15.4%
教員になる	6	10.9%	32	62.7%	16	16.0%	6	8.6%	8	7.3%	0	0.0%	1	7.7%
まだ全く決まっていない	4	7.3%	2	3.9%	5	5.0%	1	1.4%	18	16.5%	1	4.2%	1	7.7%
その他	0	0.0%	1	2.0%	1	1.0%	0	0.0%	4	3.7%	1	4.2%	2	15.4%

ビスラーニング等)があったかどうか、については、44.0%が「あった」、56.0%が「無かった」と回答した。学部別にみると、農林海洋科学部(60.6%)、医学部(58.6%)、地域協働学部(58.3%)では50%を超える高い割合となった。一方で、人文社会科学部(12.7%)は他学部と比較して低い割合となっている。理工学部(35.0%)もやや低い割合となった。

このことから、高知大学ではすべての学部の専門教育において2種類のキャリア教育を組み込んで実施しているが、まだその取り組みを開始したばかりということもあり、すべての学生がそのような授業を受けるには至っていない可能性があることが示唆された。あるいは、そのような授業を受講していたとしても、学生がその内容をキャリア教育として捉えていないケースもあると考えられた。

専門教育の中であつたらよいと思うキャリア教育の授業内容については、「自分の専門分野と関連する業界や仕事についての説明」が250件と最も多く、次いで「自分が希望する進路のためにどのような科目を履修すべきか」187件、「自分が学んでいる分野と関連が深い業界で働く社会人の講話」150件、「自分の専門分野と関連が深い業界で求められる力やスキル、資格について」137件となった。「自分の専門分野と関連する業界や仕事についての説明」については、全学で59.2%の学生があつたらよいと思うと回答しているため、こうした内容を各学部の専門教育におけるキャリア教育に組み込む必要があると考えられる。

3-2-3. アドバイザー教員によるキャリア支援に関する検証結果

次に、アドバイザー教員によるキャリア支援に関する結果についてまとめる。

まず、アドバイザー教員に対して、自分の将来や就職、進学等についてどの程度相談しているか、については、「頻繁に相談する」4.0%と「時々相談する」32.7%を合わせて36.7%となった。学部別にみると、地域協働学部が「頻繁に相談する」と「時々相談する」合わせて70.8%と他学部と比較して非常に高く、次いで教育学部(45.1%)、理工学部(40.0%)の順で高い割合となった。一方、医学部では「頻繁に相談する」と「時々相談する」合わせて21.4%と他学部と比較して低い割合となっている。次いで土佐さきがけプログラム(30.8%)、農林海洋科学部(34.0%)もやや低い割合となった。

次に、アドバイザー教員に相談している内容については、「進路選択全般について」が111件と最も多く、次いで「大学院進学について」38件、「民間企業への就職について」30件となった。また、アドバイザー教員に相談しない理由については、「特に相談する必要性を感じていないため」が161件と最も多く、次いで「アドバイザー教員に、自分の将来や就職、進学について相談できることを知らなかったため」が75件、「その他」が38件となった。このことから、アドバイザー教員に相談していない学生は、多くの場合は自分自身で主体的に進路選択を行うことができているが、一方で、相

談できることを知らなかったとする学生も75名いるため、こうした相談の機会があることを再度学生に周知する必要があると考えられた。

3-3. 専門教育におけるキャリア教育の提供状況

最後に、2020年度の専門教育におけるキャリア教育の提供状況を報告する。担当教員からの依頼を受けて2020年度に提供した授業は表7の通りである。

表7：専門教育におけるキャリア教育の提供状況

学部名	科目名	学期	担当内容
理工学部	情報社会と情報倫理	2	マスメディアとグローバリゼーションにおける正義と倫理
	情報と職業	2	社会が求める人材像～職業観・勤労観を考える～ 自己理解・職業理解とキャリアプランニング
	キャリアデザインⅠ	2	事前指導 事後指導
	キャリアデザインⅡ	2	事前指導 事後指導
大学院 理工学専攻	理工学特論Ⅰ	1	キャリア形成と就職活動

2020年度は新たに、理工学部の「キャリアデザインⅠ」、「キャリアデザインⅡ」、そして大学院の「理工学特論Ⅰ」においてもキャリア教育の提供を行った。また2021年度からは、人文社会科学部の授業（「人文社会科学と職業」）においてもキャリア教育を提供することとなっている。今後も、専門教育におけるキャリア教育の提供や支援などを継続していく予定である。

4. まとめと今後の課題

冒頭に述べた通り、本稿では、2018年度から開始した、「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施」における2020年度の実施内容を報告してきた。実施内容を振り返ると、2020年度の実施の中心は、「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用開始とキャリア教育のオンライン化にあったと言える。

「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用については、初年度であったこともあり、各学部への実施計画作成依頼、効果検証のための学生アンケート調査票作成、アンケートの実施、と、重要なタイミングでその都度キャリア形成支援ユニッ

ト会議を開催し、兼務教員からの助言や意見を取り入れながら進めていった。また先に述べた通り、記入例の作成も兼務教員に依頼して、各学部の実情に沿った事例を提供した。こうした兼務教員からの助言・協力のおかげで、初年度、かつ、コロナ禍での開始であったが、実施計画の策定から効果検証、報告書作成までを円滑に運用することができた。2021年度以降も、アンケート調査票の改訂などに際しては、兼務教員からの助言や意見を参考に進めていきたい。一方で、課題としては、学生アンケート調査の回収率向上があげられる。この点については本文でも述べた通り、アンケート実施可能期間を長くすること、そして多様な実施形式を準備することで対応していきたい。また2021年度は、キャリア教育授業と並んで、学生の一人ひとりの状況に即したキャリア支援を行うために重要なアドバイザー教員によるキャリア支援の確立について、よくある相談事例とその対応案をまとめて提供するなど、アドバイザー教員を支援するリソースの開発を進めたい。

また、キャリア教育のオンライン化については、本文でも述べた通り、就職ナビサイト運営企業や就職室の就職相談員からの協力を得て取り組んできた。就職相談員1名については、キャリアプランニングⅡだけでなくキャリアプランニングⅠにおいても協力を依頼し、学生がmoodleで提出してくる課題に対して個別のフォローをしていただいた。こうした協力のおかげで、オンライン化の後も、その質を落とすことなく学生にキャリア教育を提供することができたと考えている。このような取組については、今後も継続して行っていきたい。

さらに2021年度は、1学期に新たな科目「インターンシップ入門」も開講予定である。インターンシップは近年学生の間でも注目が集まっているため、学生がインターンシップへの一歩を踏み出せるような実践的な授業内容を検討していきたい。

謝辞

本取組に協力くださった教職員の方々、外部講師の方々、アンケート調査等に協力くださった学生の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

引用・参考文献

伊藤彰茂（2008）キャリア形成から就職支援に至る多様なキャリア教育の実践，キャリア教育の系譜と展開，社団法人雇用問題研究会.

寺田盛紀（2014）キャリア教育論：若者のキャリアと職業観の形成，学文社.

森田佐知子・岩崎貢三・徳弘靖人（2019）高知大学におけるキャリア教育体系化の取組－共通教育におけるキャリア教育の拡充とオーストラリアの先進事例をもとにした学内検討体制の整備，高知大学教育研究論集，24，31-44.

森田佐知子・岩崎貢三・徳弘靖人（2020）高知大学におけるキャリア教育体系化の取組（2）－「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の策定を中心に－，高知大学教育研究論集，25，13-26.

文部科学省中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申).

高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項

令和2年3月16日

学士課程運営委員会

第1 趣旨・目的

社会からの人材ニーズの変化や学生の多様化に伴い、大学ではこれまで以上に、学生の社会的・職業的自立に必要な知識や態度を育成する教育（以下「キャリア教育」という。）の重要性が高まっている。また、キャリア教育は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）及び「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月31日 中央教育審議会答申）においても指摘される通り、その方針を明確化し、正課教育の内外を通じて体系的・総合的に推進する必要がある。さらに学生支援の視点に立てば、学生一人ひとりの状況にも留意した支援が求められる。そこで、高知大学においても、大学として学士課程を通じたキャリア教育の体系を構築し、実施することとし、本要項において必要な事項を定める。

第2 共通教育におけるキャリア教育の充実

1 初年次科目におけるキャリア教育の実施

(1) 共通教育実施委員会及び各学部は、初年次科目（主に大学基礎論、学問基礎論又は課題探求実践セミナー）において、学生が自らの進路やキャリアについて考えるための教育を実施する。

(2) 学生総合支援センターキャリア形成支援ユニット（以下「ユニット」という。）は、各担当教員からの要請に応じて、初年次科目におけるキャリア教育の授業を行う。

2 教養科目におけるキャリア教育の実施

(1) 共通教育実施委員会は、教養科目の「キャリア形成支援分野」にて、就業に必要な諸能力（社会人基礎力、進路決定力及び就職活動力）の習得支援に資するキャリア教育を実施する。

(2) ユニットは、「キャリア形成支援分野」にキャリアプランニング等に関連する科目を設置し、低学年からのキャリア教育の強化・充実に努める。

第3 専門教育におけるキャリア教育の充実

- 1 各学部は、専門教育において以下のキャリア教育科目を設置し、実施する。
 - (1) 当該学部の専門領域と社会との繋がりについて考える機会を提供する科目
 - (2) 当該学部の専門領域と関連した実践的な科目（インターンシップ、フィールドワーク、サービスマーケティング等専門教育と関連した体験活動を主とする授業）
- 2 1で設置する授業科目は、特定のコースの学生のみが履修できるものではなく、当該学部（場合によっては学科）における学生全てに履修の機会を提供できる科目とする。

第4 アドバイザー教員によるキャリア形成支援の確立

各アドバイザー教員は、リフレクション面談等において、学生一人ひとりの状況や将来像に即したキャリア形成支援を実施する。

第5 キャリア教育実施の検証

- 1 各学部は、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画を作成し、年度はじめに学士課程運営委員会に提出する。
- 2 ユニットは、各学部の協力を得て、全学生に対しアンケート調査を毎年実施し、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての効果を測定し、その分析結果を学士課程運営委員会を通じて各学部へフィードバックする。
- 3 各学部は、2のフィードバックの内容に基づいてキャリア教育の改善・充実を図り、その方策を学士課程運営委員会に報告する。
- 4 ユニットは、各学部に対して必要に応じて助言及び支援を行う。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

2020年度 専門教育におけるキャリア教育に関するアンケート調査

学科・コース:

学籍番号:

〇〇学部では、添付の「キャリア教育・キャリア支援 実施計画」にもとづいて、皆さんに対するキャリア教育・キャリア支援を実施しています。まずは添付の実施計画を確認し、その上で、下記のアンケートにご回答ください。

この調査は、高知大学のキャリア教育・キャリア支援のさらなる充実のために実施するものです。また、皆さんとの面談等の際に参考とすることがありますので、みなさんのお名前とメールアドレス情報も収集しています。調査結果をまとめて調査報告書等で公表することがありますが、その場合、個人が特定されるような記述をすることは一切ありません。ぜひ率直な意見をお聞かせください。

高知大学 〇〇学部 学務委員会

1、専門科目におけるキャリア教育について

問1 これまでに受けてきた専門教育の授業において、専門領域と社会との繋がりについて考える機会となる授業科目(※1)はありましたか？

(※1) 座学(講義形式)で、専門領域で学んだことが職業にどう繋がるのか、社会でどのように活かせるのかを学んだり、外部講師によるキャリアに関連した講演を聞いたうえで自身の将来設計を行うような授業を指します。詳しくは、このアンケートに添付されている所属学部の「キャリア教育・キャリア支援 実施計画」をご覧ください。

1. あった (問2へ) 2. 無かった (問3へ)

**問2 【問1で「1. あった」と答えた人のみ】それは何という授業科目ですか？
具体的な科目名とその科目の担当教員名を記入してください。(複数回答可)**

問3 これまでに、専門教育の授業において、専門領域と関連した実践的な科目(※2)を受講したことはありますか？

(※2) 専門領域と関連した実践的な科目とは、実習、インターンシップ(単位認定有のもの)、フィールドワーク、サービスマーケティング等、専門教育と関連した体験活動を主とする授業を指します。

1. あった (問4へ) 2. 無かった (問5へ)

**問4 【問3で「1. あった」と答えた人のみ】それは何という授業科目ですか？
具体的な科目名とその科目の担当教員名を記入してください。(複数回答可)**

問5 専門教育の中であったら良いと思う授業内容に○を付けてください。(複数回答可)

1. 自分の専門分野と関連する業界や仕事についての説明
2. 自分が希望する進路のためにどのような科目を履修すべきか
3. 大学院進学について (大学院進学者のキャリアパス、就職活動など)
4. 自分が学んでいる分野と関連が深い業界で働く社会人の講話(若手社員・中堅社員・管理職・女性・大学院卒など)
5. 自分の専門分野と関連した職業体験(インターンシップ)について
6. 卒業後の生涯学習やスキルアップ
7. 自分の学びを踏まえ、将来をじっくりと設計する時間
8. 自分の専門分野と関連が深い業界で求められる力やスキル、資格について
9. その他 ()

2、アドバイザー教員によるキャリア形成支援について

**問6 アドバイザー教員に対して、自分の将来や就職、進学等についてどの程度相談をしますか？
以下の中から最も近いものを一つ選んでください。**

1. 頻繁に相談する 2. 時々相談する 1. 2の人は問7へ
3. ほとんど相談しない 4. 全く相談しない 3. 4の人は問8へ

**問7 【問6で「1. 頻繁に相談する」、「2. 時々相談する」と答えた人のみ】
どのような内容について、アドバイザー教員に相談していますか？(複数回答可)**

1. 進路選択全般について
2. 大学院進学について
3. 民間企業への就職について
4. 公務員採用試験について
5. 教員採用試験について
6. 医師・看護師等の国家試験について
7. その他 ()

2ページ目に
続きます

問8 【問6で「3. ほとんど相談しない」、「4. 全く相談しない」と答えた人のみ】

自分の将来や就職、進学等について、アドバイザー教員に相談しないのはなぜですか？(複数回答可)

1. 特に相談する必要性を感じていないため
2. アドバイザー教員に、自分の将来や就職、進学等について相談できることを知らなかったため
3. 相談したが、あまり相談に乗ってくれなかったため
4. その他()

問9 自分の将来や就職、進学等について、アドバイザー教員に求める支援や要望があればご記入ください。

3. 将来のキャリアについて

問10 あなたは将来、どんなふうに働きたいですか？ (今の希望に一番近いものに○)

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 民間企業に就職する(営業・事務・技術・その他) | 6. 医療系以外の専門職になる(税理士、弁護士など) |
| 2. 公務員になる(国家・県・市町村・専門職など) | 7. 研究者になる(大学・研究所など) |
| 3. 非営利組織で働く(NPOなど) | 8. 教員になる(幼・小・中・高・特別支援学校など) |
| 4. 起業する | 9. まだ全く決まっていない |
| 5. 医療系専門職になる(医師、看護師など) | 10. その他() |

4. 学部独自の質問項目(例)⇒各学部の実施計画にもとづき設定してください。

問11 【「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」を受講した方のみ】

キャリアデザインⅠ(もしくはⅡ)における以下の授業目標をどの程度達成できたと思いますか？

- ①「どのように働き、生きていくのか」について考える
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ②社会で「働くこと」、大学で「学ぶこと」の意義を考える
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ③「自身の将来の進路について」を考える
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ④「講義内容を自身の将来のキャリアにどのように活かしていくか」について考える
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない

問12 【「実践キャリアデザイン」を受講した方のみ】

実践キャリアデザインにおける以下の授業目標をどの程度達成できたと思いますか？

- ①多様で意義深い人生を送っている人達に学び、今後活かすことができるよう努力することができる
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ②学習技術を活かしながら様々な情報や客観的データと自分の感性や意見を取り入れ、様々な課題に取り組んでいくことができる力を身に付ける
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ③人と社会を信頼することを学び、それを活かせるように努力することができる
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない
- ④信頼と絆を失った人達の失敗から学び、それを活かせるように努力することができる
 1. かなり達成できた
 2. 達成できた
 3. 達成できていない
 4. 全く達成できていない

問13 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、実践キャリアデザインについて、要望や改善点があれば記入してください。

質問は以上です。ご協力をありがとうございました。